

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.**

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-307842

(43)Date of publication of application : 22.11.1996

(51)Int.Cl.

H04N 7/15  
H04M 3/56  
// H04N 1/00

(21)Application number : 07-104922

(71)Applicant : OKI ELECTRIC IND CO LTD

(22)Date of filing : 28.04.1995

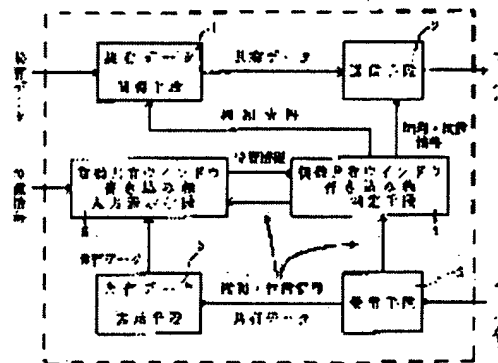
(72)Inventor : FUKUNAGA SHIGERU  
FUJII AKIHIRO  
NAKAI TOSHIHISA

## (54) ELECTRONIC CONFERENCE SYSTEM

## (57)Abstract:

**PURPOSE:** To display possessors of a write right and request persons in addition to a common window at a terminal equipment of other participants by displaying a mark respectively corresponding to common windows of plural screens onto a screen and moving the mark representing a participant to the mark.

**CONSTITUTION:** A plural-common window write right discrimination means 4 discriminates the presence of a write right to plural common windows according to right-position information obtained from a server via a reception means 3 and sends position information of other participants to a plural common window write right input display means 6. A common data display means 5 classifies characters and lines of common data on the basis of headers and displays them respectively onto a desired common window and sends the common data for reduction display to the means 6. The means 6 displays operation window of write right or the like of the plural common windows based on the movement of the mark and displays it on the assumption that all participants are gathered in a virtual place to input and display the write right.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 【公開番号】

特開平 8-307842

(43) 【公開日】 平成 8 年(1996) 11 月 22 日

(51) 【国際特許分類第 6 版】

【F I】

H04N 7/15

H04N 7/15

H04M 3/56

H04M 3/56

C

// H04N 1/00

H04N 1/00

Z

【審査請求】 未請求

【請求項の数】 3

【出願形態】 O L

【全页数】 9

(21) 【出願番号】 特願平 7-104922

(22) 【出願日】 平成 7 年(1995) 4 月 28 日

(71) 【出願人】 000000295 沖電気工業株式会社

【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門 1 丁目 7 番 12 号

(72) 【発明者】 福永 茂

【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門 1 丁目 7 番 12 号 沖電気工業株式会社内

(72) 【発明者】 藤井 明宏

【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門 1 丁目 7 番 12 号 沖電気工業株式会社内

(72) 【発明者】 中井 敏久

【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門 1 丁目 7 番 12 号 沖電気工業株式会社内

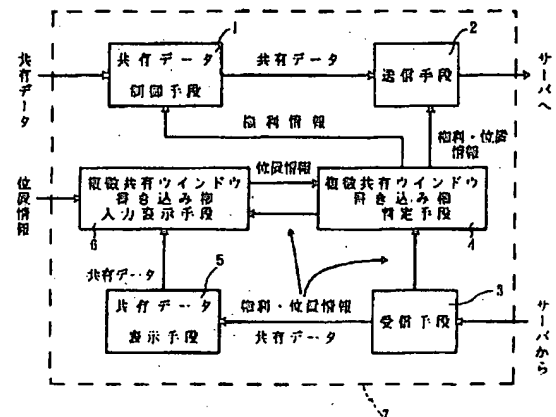
(74) 【代理人】 【弁理士】 金倉 喬二

(54) 【発明の名称】 電子会議システム

(57) 【要約】

【目的】 電子会議システムにおいて、複数の共有ウィンドウに対して所有権を視覚的に明示する。

【構成】 参加者を表すマークや複数の共有ウィンドウにそれぞれ対応させたホワイトボードを表示する複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段 6 と、参加者を表すマークのホワイトボードに対する位置関係から、各ホワイトボード毎に書き込み権の要求あるいは放棄を検出する複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段 4 と、他の端末へ書き込み権の要求あるいは放棄を伝達する送信手段 2 と、他の端末の書き込み権の要求あるいは放棄を受ける受信手段 3 とを備える。



本発明の電子会議システムの端末のブロック図

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 自端末のデータを他の端末に送信し、他の端末からのデータを自端末に取り込み、前記端末間で送受されるデータを各端末にて共有ウィンドウに表示する電子会議システムで、上記共有ウィンドウに対するデータの書き込みまたは消去のための書き込み権を生成し、自端末の書き込み権の情報を他の端末に送信し、この書き込み権情報を用いて共有ウィンドウへのデータの書き込みまたは消去を行いながら会議を行う電子会議システムにおいて、複数の共有ウィンドウを表示し、端末間で送受されるデータを所望の共有ウィンドウに表示する共有データ表示手段と、前記書き込み権情報を基に複数の共有ウィンドウに対して書き込み権の有無を判断する複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段と、前記書き込み権情報を複数の共有ウィンドウの表示に関連させて符号または図形情報で可視的に表示する複数共有ウィンドウ書き込み権情報表示手段とを備えたことを特徴とする電子会議システム。

【請求項 2】 請求項 1 記載の電子会議システムにおいて、前記複数共有ウィンドウ書き込み権情報表示手段は、複数面の共有ウィンドウにそれぞれ対応させたマークと、会議参加者を表すマークを表示し、前記複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段は、前記書き込み権情報として、共有ウィンドウに対応したマークに対する参加者を表すマークの位置情報を得て、共有ウィンドウに対応したマークに対する参加者を表すマークの重なりから、書き込み権の有無を判断することを特徴とする電子会議システム。

【請求項 3】 請求項 1 記載の電子会議システムにおいて、前記複数共有ウィンドウ書き込み権情報表示手段は、複数面の共有ウィンドウにそれぞれ対応させたマークと、会議参加者を表すマークを表示し、共有ウィンドウに対する書き込み権要求を表すマークを表示し、前記複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段は、前記書き込み権情報として、共有ウィンドウに対応したマークに対する参加者を表すマークの位置情報と共有ウィンドウに対する書き込み権要求を表すマークの表示有無情報を得て、共有ウィンドウに対応したマークに対する参加者を表すマークの重なりと共有ウィンドウに対する書き込み権要求を表すマークの表示の有無から、書き込み権の有無を判断することを特徴とする電子会議システム。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、電子会議システムに関するものであり、端末に表示されるウィンドウに対する書き込み権に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、ネットワークの発達と、企業や組織の分散化が進み、地理的に離れた場所にいる人々が、それぞれのコンピュータの情報を共有しながら共同作業を行う、いわゆる C S C W (Computer Suported Cooperative Work) の必要性が高まっている。

【0003】 このような技術が、「阪田史郎：「分散会議システム」，テレビジョン誌，45，8，pp. 926-930 (1991)」に開示されている。代表的な C S C W 支援の仕組みが共有ウィンドウである。共有ウィンドウは、複数の端末上に同じ画面を表示して、各端末から自由に書き込みができるものであり、実際の会議でのホワイトボードの役目をする。手書きによる文字や線の入力以外に、文章等のデータを表示したり、編集したりできるものもある。

【0004】 表示されたデータの内容を参加者間で同一に保つために、共有ウィンドウにデータを書き込む権利（消去する権利も含む）を排他的に制御する必要がある。従来は、書き込み権の移行に以下に示す 4 つのモードを用意し、会議の性質や参加人数によって選択できるようにしている。すなわち、議長の指名により書き込み権が移動する議長指名モード、書き込み権保有者が権利を放棄した時に、書き込み権を要求している人の内、もっとも早く要求した人に移行する要求順モード、現在の書き込み権保有者が次の書き込み者を指名できるボタンモード、全ての人が常に操作できる非制御モードの 4 つのモードが用意されている。

【0005】 ここで、非制御モードの場合は、同時に書き込みできるので、参加者の注意が必要となる。また、誰がどの文字や線を書き込んでいるかを表すために、それぞれ異なる色で表示することとしている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 従来の電子会議システムであると、現在誰が書き込み権を有し、誰が書き込み権を要求しているかを名前等で表示している。しかし、文字の表示だけでは、権利の移動を明確に表すことが困難である。また、書き込み権を複数の人が要求している

場合、現在何人要求しており、誰が何番目なのかがわかり難い。

【0007】さらに、非制御モードでは、誰が何色を使用中であるかを常に念頭に入れておく必要がある。また、線や文字を消す時は、誰が消しているかが明示できない。実際の会議では、ホワイトボード上に誰が書いているかは、見ればすぐわかることであり、このようなことに注意を払う必要はない。そこで、電子会議システムの効果を上げるためには、深く注意しなくても誰が書き込んでいるかが感覚的にわかる必要がある。

【0008】そこで、共有ウィンドウの他に、書き込み権所有者や要求者、複数の書き込み者を視覚的に明示したウィンドウを画面に表示する方法が提案されているが、共有ウィンドウが1面の場合にしか対応できないものであった。

【0009】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決するため、本発明は、自端末のデータを他の端末に送信し、他の端末からのデータを自端末に取り込み、前記端末間で送受されるデータを各端末にて共有ウィンドウに表示する電子会議システムで、上記共有ウィンドウに対するデータの書き込みまたは消去のための書き込み権を生成し、自端末の書き込み権の情報を他の端末に送信し、この書き込み権情報を用いて共有ウィンドウへのデータの書き込みまたは消去を行いながら会議を行う電子会議システムにおいて、複数の共有ウィンドウを表示し、端末間で送受されるデータを所望の共有ウィンドウに表示する共有データ表示手段と、複数面の共有ウィンドウにそれぞれ対応させたマークと、会議参加者を表すマークを表示する複数共有ウィンドウ書き込み権情報表示手段と、前記書き込み権情報として、共有ウィンドウに対応したマークに対する参加者を表すマークの位置情報を得て、共有ウィンドウに対応したマークに対する参加者を表すマークの重なりから、書き込み権の有無を判断する複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段とを備えたものである。

【0010】

【作用】上述した構成を有する本発明は、画面上に複数面の共有ウィンドウにそれぞれ対応させたマークを表示し、このマークの所へ参加者を表すマークを移動させることで、書き込み権要求・放棄を行う。自分の端末で自分に対応した参加者を表すマークを移動すると、この情

報は他の端末に伝達され、他の参加者の端末では該当する参加者に対応するマークが移動する。

【0011】

【実施例】図1は本発明の電子会議システムに用いられる端末のブロック図である。以下に、第1の実施例における電子会議システムを説明する。図1において、共有データ制御手段1は、自分の権利情報に従って入力されたデータを送信手段2に選択的に送る手段である。

【0012】この送信手段2は、どの共有ウィンドウのデータであるかを記したヘッダを付加して共有データと権利・位置情報をサーバに送信する手段である。受信手段3は、サーバから共有データと権利・位置情報を受け取り、権利・位置情報を複数共有ウィンドウ書き込み権利判定手段4に、共有データを共有データ表示手段5に送る手段である。

【0013】この複数共有ウィンドウ書き込み権利判定手段4は、サーバから得た権利・位置情報より、複数の共有ウィンドウに対して書き込み権の有無を判定する。また、前記共有データ表示手段5は、共有データの文字や線をヘッダを基に分類し、それぞれ所望の共有ウィンドウ上に表示する手段であり、縮小表示（簡易表示）用の共有データを複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段6に送る。

【0014】この複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段6は、複数共有ウィンドウの書き込み権等の操作ウィンドウを表示する。参加者全員が仮想的なひとつの場所（会議室）に集まっているものとして表示し、複数共有ウィンドウ書き込み権情報の入力および表示をする手段である。まず、使用者から入力される位置データを前記複数共有ウィンドウ書き込み権利判定手段4に送り、該複数共有ウィンドウ書き込み権利判定手段4から他の参加者の位置データを受け取る。さらに、位置データを基に各参加者を仮想の会議室上に表示する。

【0015】図2は電子会議システムの全体ブロック図で、図1で説明した端末7がサーバ8に接続されるもので、サーバ8には複数の端末7（7a～7d）が接続される。各端末7a～7dは、1つのサーバ8との間で共有データや書き込み権の情報を送受信する。そして、サーバ8は、書き込み権の所有端末や各端末7a～7dからの書き込み権の要求、放棄情報を管理し、権利の移動制御を行う。また、共有データを各端末7a～7dに送信する。

【0016】図3はサーバのブロック図で、受信手段9は各端末7a～7dからの共有データや権利情報を受信し、共有データは配送手段10、権利情報は書き込み権制御手段11に送る。配送手段10は、共有データや権利情報を各端末7に送る。書き込み権制御手段11は、各端末からの権利要求や放棄の情報を受け取り、権利所有端末や要求順序の管理を行い、制御モードに従って権利の移動を行う。さらに、移動後の権利情報を配送手段10へ送る。

【0017】図4は本発明の操作ウィンドウの一例を表す説明図である。端末に設けられるディスプレイ上を仮定の会議室として、A、B、C、Dの4人の参加者がテーブルの周りに位置しているような表示を行う。なお、この例では円に記号で各参加者を表しているが、形状は矩形でもよく、各参加者の名前や似顔絵、顔画像を会議室上に表示することでも実現できる。

【0018】また、テーブルの向こうにホワイトボードが置いてあるような表示を行い、参加者とホワイトボードとの位置関係で書き込み権の入力・表示を行う。ここで、本発明では、ホワイトボードを分割して表示するもので、分割されたホワイトボードはそれぞれ別々の共有ウィンドウに対応する。図4は4分割した例であり、4つまでの共有ウィンドウを制御でき、使用する共有ウィンドウの数が多い場合は、多く分割すればよい。

【0019】図5は本発明のホワイトボードの他の分割例を表す説明図で、1方向に帯状に分割して表示してもよい。また、ホワイトボード上には、共有ウィンドウの画面（共有データ）を縮小または簡略化して表示してもよい。図6は共有ウィンドウに名前をつけた例を表す説明図で、それぞれ対応する共有ウィンドウの名前を表示してもよい。この場合、名前が表示されていないホワイトボードは、対応する共有ウィンドウが動作していないことを表すようにしてもよい。

【0020】また、対応する共有ウィンドウが動作中のホワイトボードは、それぞれ異なる色で表示しても良い。図7は共有ウィンドウに色を付けた例を表す説明図で、枠部分のみを色付けしても良く、共有ウィンドウの名前を同時に表示することも可能である。図1で説明した複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段4は、各参加者とホワイトボード等との位置関係から、複数共有ウィンドウ書き込み権を判定する手段である。複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段6から自分の位置情報を受け、権利の要求や放棄を行っているかどうかを判定する。これ

は、各参加者の位置がホワイトボードに重なっているかどうか、また、ホワイトボードをマウス等の入力装置によりクリックしたかどうかで判定する。この場合、分割されたホワイトボードでそれぞれ判定する。権利の要求や放棄を行っている場合は、自分の位置情報とともに自分の権利情報を共有データ制御手段1と送信手段2に送る。送信手段2から他の参加者の端末に自分の位置情報とともに自分の権利情報が送られ、他の端末で権利の有無を位置情報として表示される。また、受信手段3から他の参加者の位置情報や権利情報を受け取り、複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段13へ送り、他の参加者の表示を行うものである。

【0021】上記構成によると、複数の共有ウィンドウの書き込み権の要求や放棄操作は、すべて位置の移動により行い、各参加者の位置で、書き込み権の要求や所有、放棄等を明示する。書き込み権を要求する場合は、参加者を表すマークを目的の共有ウィンドウに対応したホワイトボード上に移動する。図8は書き込み権所有例を表す説明図で、例えば参加者Aが「editor」（文章編集ツール等）の書き込み権を要求した例であり、前書き込み権所有者がいない場合は、参加者「A」を表すマークがホワイトボードの「editor」上に移動して、すぐに書き込み権が参加者Aに移動する。このとき、他の参加者は参加者Aがホワイトボード上に移動した表示により、参加者Aが書き込み権を要求して獲得したことを視覚的に認識できる。なお、他の参加者の場合も同じである。

【0022】また、書き込み権所有者Aはホワイトボードから離れることで、書き込み権が放棄される。図9は多人数の書き込み権所有例を表す説明図で、多人数の書き込み権所有を認める共有ウィンドウでは、図9のように、複数の参加者がホワイトボード上の所定の共有ウィンドウに移動することで、それぞれの参加者が書き込み権を獲得できる。

【0023】また、多人数の書き込み権所有を認めない排他処理の必要な共有ウィンドウでは、後から移動した参加者へはすぐに書き込み権は移動せず、前書き込み権所有者がホワイトボードから離れて書き込み権を放棄した時に、権利の移動が行われる。すなわち、複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段6は、後から移動した参加者への権利の移動はすぐには行わず、前書き込み権所有者がホワイトボードから離れて書き込み権を放棄し

た時に、後からの参加者を表すマークを移動して、権利の移動を行うものである。

【0024】図10は複数共有ウィンドウの書き込み権所有例を表す説明図で、参加者を表すマークを複数のホワイトボードに重ねる位置に移動させることで、複数の共有ウィンドウの書き込み権を同時に所有できる。以上説明したように、第1の実施例では、権利の要求や放棄、所有や移動が視覚的に表示されるので、特別な注意を払わなくても誰に書き込み権があるかが一目でわかり、より円滑な意思疎通を支援することができる。

【0025】また、自分の位置の移動だけで権利の要求や放棄操作ができるので、より視覚的なインタフェースが実現でき、議論中の思考を妨げずに操作を行うことが可能となる。さらに、複数の共有ウィンドウを制御できるので、いろいろな会議形態に対応できる。

【0026】次に、第2の実施例における電子会議システムの説明を行う。上述した第1の実施例では、参加者を表すマークをホワイトボードに重ねることで、書き込み権を所有するようにしたが、第2の実施例では、参加者を表すマークに書き込み権を所有したことを表すマークを付加して書き込み権を所有することとする。なお、端末の構造としては、図1で説明したものと同様であり、複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段6に、書き込み権を所有したことを表すマークを表示する機能を付加し、複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段4に、書き込み権を所有したことを表すマークの有無で書き込み権の有無を判定する機能を付加したものである。

【0027】図11はペン表示による書き込み権所有例を表す説明図で、書き込み権の所有者をより明確に表示するために、複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段6は、書き込み権所有者上に書き込み権を所有したことを表すマークとしてペンの絵等を表示する。この場合、ホワイトボードの色分けと同じ色でペンを表示したり、共有ウィンドウ名をペン上に表示して、複数の共有ウィンドウに対応するペンを区別する。

【0028】また、第1の実施例では、マークの位置移動だけで書き込み権の操作を行ったが、第2の実施例では、複数の共有ウィンドウの書き込み権の要求や放棄操作は、位置の移動とマウス等の入力装置によるホワイトボードへのクリックの2段階操作により行なうようにしても良い。この場合は、各参加者の位置とペン表示により、書き込み権の要求や所有、放棄等を明示する。

【0029】書き込み権を要求する場合は、図11で表すように、所望の共有ウィンドウに対応したホワイトボード上に参加者を表すマーク（ここでは参加者A）を移動し、さらにマウス等の入力装置によりホワイトボードをクリックする。これにより、ペンの表示が現れ、書き込み権が参加者Aに移動する。この第2の実施例では、第1の実施例のように参加者を表すマークをホワイトボード上に移動しただけでは、書き込み権の移動は起こらない。

【0030】また、書き込み権所有者は、ホワイトボードから離れることでは書き込み権を放棄しない。図12は参加者を表すマークの位置によらない書き込み権所有例を表す説明図で、第2の実施例では、書き込み権要求が参加者を表すマークの位置のみに依存しないので、図12で表すように、他の参加者が書き込み権の要求を行わない限りどこへ移動しても書き込み権を所有し続けるようにしてもよい。この場合は、書き込み権を所有しているが、いつでも放棄して良い状態と見なす。また、強制的に権利を放棄したい時は、再度ホワイトボードをクリックすると放棄できるようにしても良い。

【0031】図13はペン表示による多人数の書き込み権所有例を表す説明図で、多人数の書き込み権所有を認める共有ウィンドウでは、図13のように、同じ色のペンを複数の参加者を表すマークに対応させて表示することで、それぞれの参加者が書き込み権を所有できる。多人数の書き込み権所有を認めない排他処理の必要な共有ウィンドウでは、現所有者がホワイトボードから離れている場合のみ、後から要求した参加者へすぐに書き込み権が移動する。また、現所有者がホワイトボード上に位置している場合は、権利の移動は発生しない。これにより、現所有者が書き込み権を放棄したくないない場合を設定できる。この場合は、現所有者がホワイトボードから離れて、権利を放棄してもよい状況になった後に、他の参加者が権利要求を再度行うことで、権利の移動が行われる。

【0032】図14はペン表示による複数共有ウィンドウの書き込み権所有例を表す説明図で、マウス等の入力装置により所望の複数のホワイトボードをクリックすることで、色の異なるペンが並べて表示され、これにより、複数の共有ウィンドウの書き込み権を同時に所有できる。以上説明した第2の実施例によれば、ペンの絵等で書き込み権の所有者を表示するので、視覚的にわかり易い。

【0033】また、書き込み権の要求を例えば位置移動とマウスクリックの２段階の操作で行うので、仮想の会議室表示上を自由に移動することができる。さらに、書き込み権の要求を２段階の操作で行うので、複数の共有ウィンドウの書き込み権を獲得する際に、不要な権利まで獲得してしまうことがない。また、他参加者が要求を行うまで書き込み権の放棄をしないので、権利所有中でも仮想の会議室表示上を自由に移動することができる。

【0034】また、他参加者が要求を行うまで書き込み権の放棄をしないので、現所有者は権利を持続したいか放棄しても良いかの意思表示を行うことができる。なお、第２の実施例では各参加者の位置移動とペン表示により、書き込み権の所有状態を表すこととしたが、これに限定するものではない。各参加者の色を変えることでも表示できる。また、ペンだけではなく対応する共有ウィンドウの種類によって絵を変えるようにしてもよい。例えば、文章編集ツールならペン、作図ツールなら筆、端末ならキーボードやマウス等のように、対応する共有ウィンドウを連想できる絵にすると判別しやすい。

【0035】また、多人数の書き込み権所有を認める共有ウィンドウと多人数の書き込み権所有を認めない排他処理の必要な共有ウィンドウに分けて説明したが、これに限定するものではない。例えば、文章編集ツール等で、文章の編集は排他処理が必要であるが、文章が表示されているウィンドウに文字や記号を上書きするのは多人数の書き込みを認めているツールもある。この場合には、編集のみを書き込み権の排他制御し、上書き等は書き込み権がなくても全員が書き込めるようにしてもよい。

【0036】また、第１の実施例および第２の実施例では、ホワイトボードに参加者を表すマークが重なることで書き込み権要求の判定を行ったがこれに限定するものではない。ホワイトボードではなく、ノート等別の絵でもよく、また、通常の機能ボタンでもよい。また、重ならなくても、ある閾値より近づいたことを判定基準としてもよい。

【0037】

【発明の効果】以上説明したように、本発明は、画面上に複数面の共有ウィンドウにそれぞれ対応させたマークを表示し、このマークの所へ参加者を表すマークを移動させることで、書き込み権要求・放棄を行うこととしたので、複数の共有ウィンドウに対して参加者の誰が所有権を持ち誰が所有権を持たないかが視覚的に明確になる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の電子会議システムに用いられる端末のブロック図である。

【図２】電子会議システムの全体ブロック図である。

【図３】サーバのブロック図である。

【図４】本発明の操作ウィンドウの一例を表す説明図である。

【図５】本発明のホワイトボードの他の分割例を表す説明図である。

【図６】共有ウィンドウに名前をつけた例を表す説明図である。

【図７】共有ウィンドウに色を付けた例を表す説明図である。

【図８】書き込み権所有例を表す説明図である。

【図９】多人数の書き込み権所有例を表す説明図である。

【図１０】複数共有ウィンドウの書き込み権所有例を表す説明図である。

【図１１】ペン表示による書き込み権所有例を表す説明図である。

【図１２】参加者を表すマークの位置によらない書き込み権所有例を表す説明図である。

【図１３】ペン表示による多人数の書き込み権所有例を表す説明図である。

【図１４】ペン表示による複数共有ウィンドウの書き込み権所有例を表す説明図である。

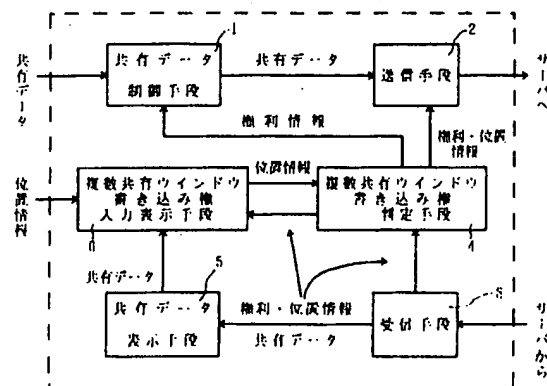
【符号の説明】

４ 複数共有ウィンドウ書き込み権判定手段

５ 共有データ表示手段

６ 複数共有ウィンドウ書き込み権入力表示手段

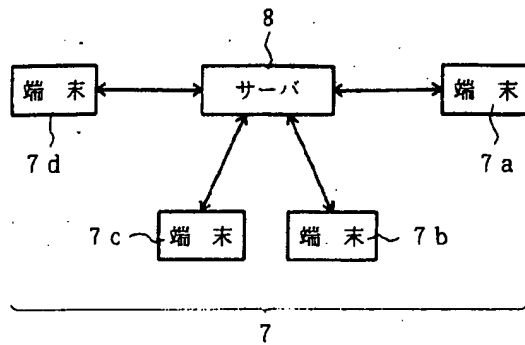
【図１】



本発明の電子会議システムの端末のブロック図

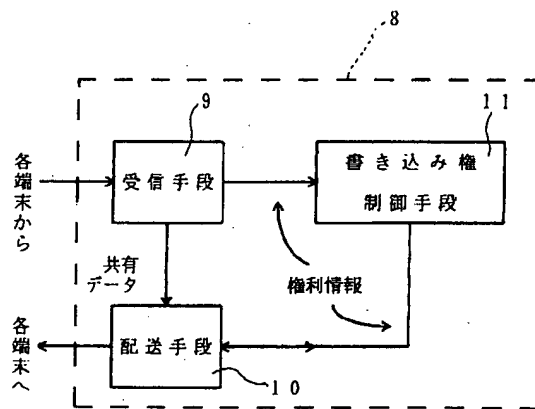


【図2】



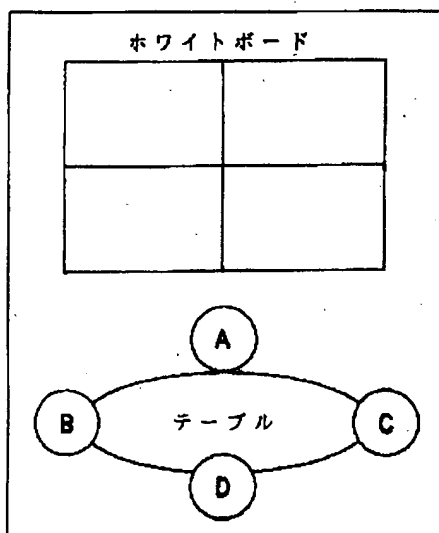
電子会議システムの全体ブロック図

【図3】



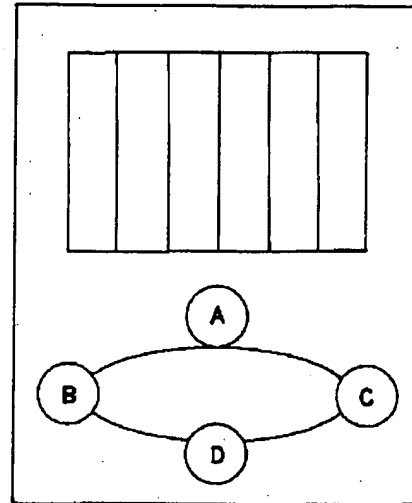
サーバのブロック図

【図4】



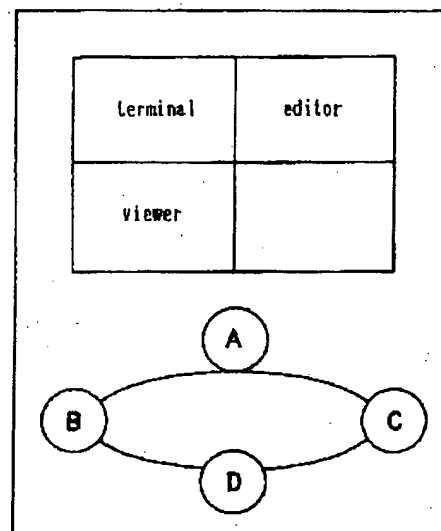
本発明の操作ウィンドウの一例を表す説明図

【図5】



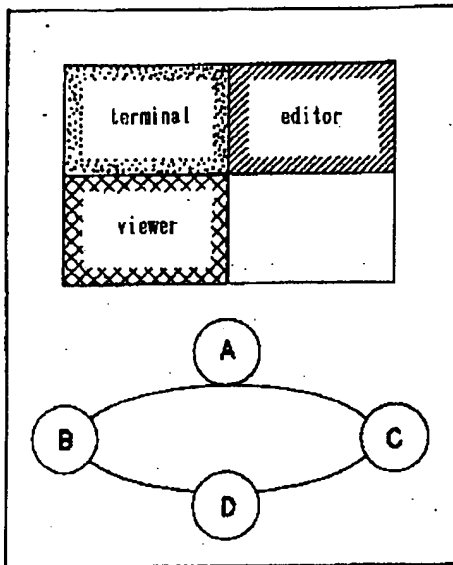
本発明のホワイトボードの他の分割例を表す説明図

【図6】



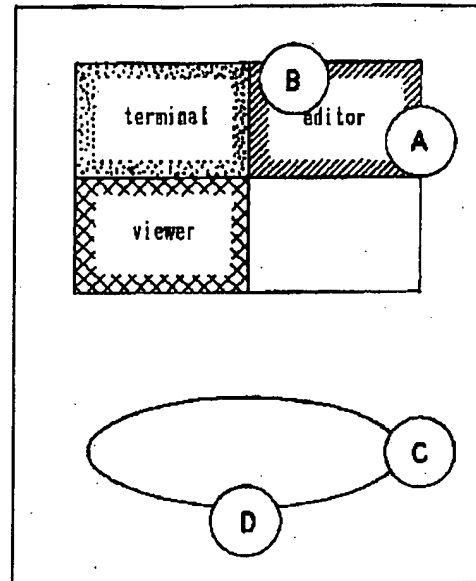
共有ウィンドウに名前をつけた例を表す説明図

【図 7】



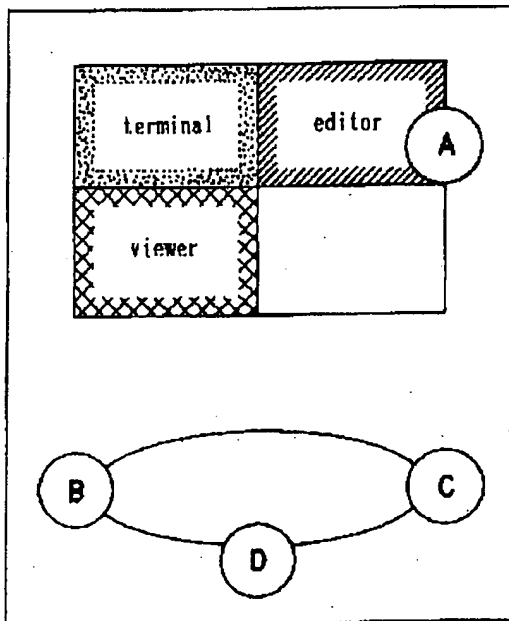
共有ウィンドウに色をつけた例を表す説明図

【図 9】



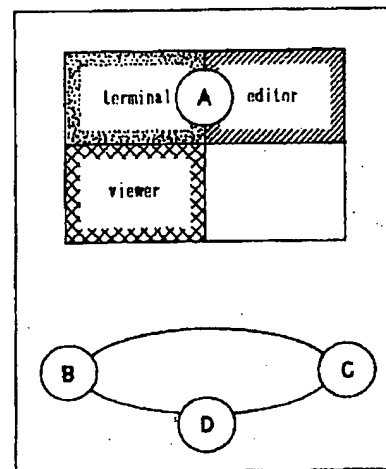
多人数の書き込み権所有の例を表す説明図

【図 8】



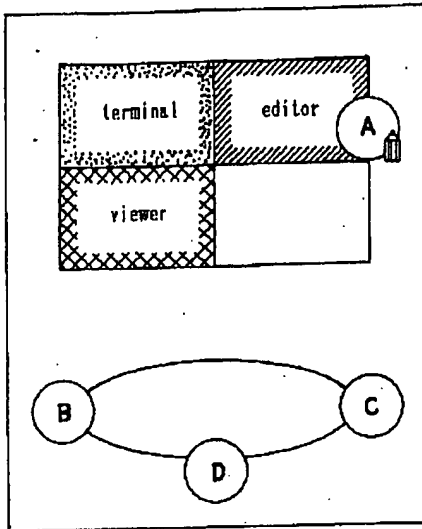
書き込み権所有の例を表す説明図

【図 10】



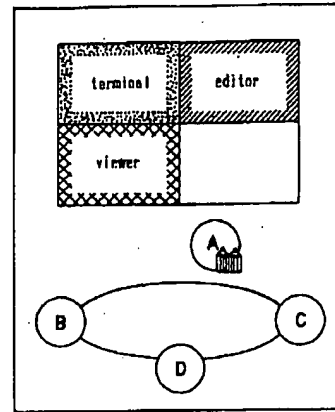
複数共有ウィンドウの書き込み権所有の例を表す説明図

【図 1 1】



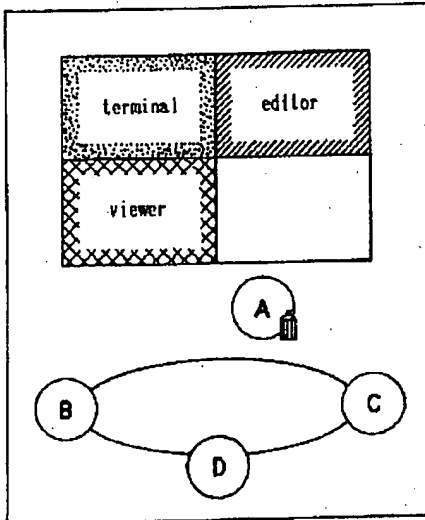
ペン表示による書き込み権所有の例を表す説明図

【図 1 4】



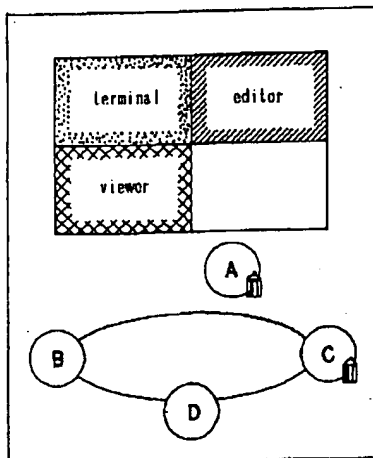
ペン表示による複数共有ウィンドウの書き込み権所有の例を表す説明図

【図 1 2】



位置によらない書き込み権所有の例を表す説明図

【図 1 3】



ペン表示による多人数の書き込み権所有の例を表す説明図